

Knock on the door



vol. 4 ^{かん ぶづき} [神無月・^{しもつき} 霜月の扉]

1. ^{ことば まほう} 言葉の魔法

^{ことば} 言葉 ^{ひょうり いったい} って表裏一体

^{せっきょくてき む てっぽう む ぼう とら} 積極的⇔無鉄砲、無謀なんて捉えられたりもするし、

^{しょうきょくてき れいせい かんが こうどう と} 消極的⇔冷静、考えてから行動するとも取れる。

どうせなら^よ 良いほうだと^{おも} 思った方が、^{ほう} 気持ちが^{き も らく} 楽になる。

良い方の自分、相手を見てあげよう！



2. 後期が始まります

^{ぜん き} 前期の^{せいせき} 成績が^で 出てこれから^{こう き はじ} 後期が始まります。^{きせつがらす} 季節柄過ごしやすい^{よう き} 陽気になりますが、

^{きゅう} 急に^{きおん ひく} 気温が低くなったり、^{てん き な} 天気が変わったりすることもあるので^{たいちよう くす} 体調を崩しやすいです。

また^{あき} 秋に^{きもち お こ} 気持ちが落ち込む『^{きせつせい} 季節性うつ』の^{じ き} 時期でもありますので、

^{たいない どけい} 体内時計を^{しゅうせい} きちんと修正できるように、^{ひ ひかり} 日の光を^あ しっかり浴び、

^{かる うんどう} 軽い運動をするようにしましょう。



3. たけのこのこ

「1回やってできなければ、10回やればいい。10回やってできなければ100回やればいい。」

私は小学生のとき、計算が苦手だった。一生懸命練習しても不器用でなかなか速度が上がらず、計算速度テストではクラスで断トツの最下位だった。

それが悔しくて、泣きながら家で何度も母親に時間を計ってもらい練習するのだが、全く早くなる気配がなかった。そんな私を見て父が声をかけてくれたのが上に引いた言葉だった。この言葉にはまだ続きがある。

「100回やってできなければ1000回、そうしていつかできるようになった時、お前は誰よりもそのことが理解できるようになっているはずだよ。」

父の言葉が嬉しくて私は練習を続けた。いくらやっても他の子のように速度は上がらなかったが、父が言ったように、その計算や問題の意味を深く理解することができた。元々私は他人と競おうと思っていたのではなく、自分ができないことが悔しかっただけなのでそれで十分だった。

10数年後、私は教員採用試験を受けていた。その問題の中でたけのこの話があった。「たけのこは3～4年くらい地面の中にいて、全く伸びないように見える時期があるが、伸び始めると一気に成長していく。」この話を読んで私は、「たけのこはまるで自分のようだ」と思った。

小学生のとき、不器用で全然伸びなかった私。でも父の言葉に励まされて地道に努力を積み重ねた私。あの時はまるで伸びていないように見えただけで、それが今はこうして教員を目指す存在にまで成長したのだと感慨深く感じた。

その後教員として採用されて、最初の担任を持ったときの学級通信のタイトルは、当然「たけのこ」にした。自分の象徴的なものであることも理由の一つだったが、何より生徒たちにたけのこの成長の話をしたというメッセージでもあった。君たちは成長していないように見えるだけだよ。

教員生活14年、色々な生徒たちと出会った。その中には、「俺はバカだからいくらやっても無駄だよ。」、「私は勉強の才能ないから」というあきらめの言葉をつぶやく子もいた。そんな生徒たちに僕は必ず、

「1回やってできなければ、10回やればいい。10回やってできなければ100回やればいい。」

「伸びてないように見えるだけで、私が言うとおりのやったらちゃんとこれから伸びるから。」

「嘘だと思うって？先生は勉強できない子だったんだぜ。」

といった声をかけるようにしている。

できないと思っている生徒たち、君たちはできない子なのではなく、『たけのこ』なだけなのだよ。